



相模原市立 公文書館だより

第14号 令和3年10月

歴史的公文書の“こぼれ話”をわかりやすく紹介 ～公文書館KOBORE話～

歴史的公文書にはその時代や世相を反映した市の諸活動や歴史的事実など、さまざまなことが記録されています。

今や当たり前のことその始まりがあり、また、過去に行われていたことは形や内容を変え、今に受け継がれています。

そこで、7月から広く市民の皆さんを対象として、所蔵する歴史的公文書から1冊を取り上げ、その公文書が作成された時代背景や関わる出来事などをわかりやすく解説する「公文書館KOBORE話」を新たに開始しました。

これは、月ごとにテーマを掲げ、歴史的公文書から見るさがみはらの歴史の一端を紹介し、さがみはらの歴史に触れるきっかけとして、歴史的公文書や公文書館を広く市民の皆さんに知っていただくことを目的として開催しているものです。

初年度となる今年は、今年4月に市立博物館から移管された歴史的公文書(旧町村文書)を中心紹介しています。

第1回は、「相原村の電気事情」をテーマに、日本初の大規模調整池式発電所である八ツ沢発電所(山梨県上野原市)から淀橋変電所(東京都



第1回公文書館KOBORE話の様子

新宿区)に至る送電線の一部が相原村を通ることから始まる経過などを記録する「東京電灯株式会社二関スル取扱事項(明治42年)(相原村文書)」を取り上げました。

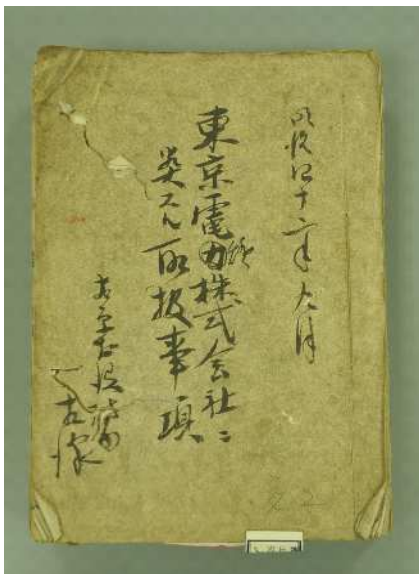
今年度のテーマは下表のとおりで、今後はリクエストなどによるテーマ設定なども検討し、さがみはらの歴史に触れる時間を提供していきます。

なお、「相原村の電気事情」は、「シリーズ相模原を考える」(2~3頁)で詳しく紹介しています。

今後の「公文書館 KOBORE 話」の開催予定

- | | | |
|-----|-----------|--------------|
| 第3回 | 10月20日(水) | 昭和15年の税制改正 |
| 第4回 | 11月17日(水) | アンゴラ兔の飼育 |
| 第5回 | 12月15日(水) | 尾崎号堂うまれち記念事業 |
| 第6回 | 1月19日(水) | 相原村の神社合祀 |
| 第7回 | 2月16日(水) | 調整中 |
| 第8回 | 3月16日(水) | 調整中 |

時間はいずれも午後2時~2時30分



「東京電灯株式会社二関スル取扱事項」(明治42年)(相原村文書)

相原村の電気事情

送電線の設置と電灯点灯までの経緯

相原村文書の中にある「東京電灯株式会社二関スル取扱事項」(明治42年)(注1)と「電灯設置関係書」(大正2年)(注2)という簿冊を使い、旧相模原と津久井地域が水でつながる以前に電気につながっていることを明らかにしていきます。

送電線「ハツ沢線」の設置まで

写真1は、西橋本を通る送電鉄塔です。3つの送電鉄塔が走っていることがわかります。鉄塔に付けられた看板から左側が「都留線」、中央が「ハツ沢線」、右側が「川尻線」という名前であることがわかります。このうち、中央のハツ沢線が最も古く、この送電線の設置経過をつづっているのが「東京電灯株式会社二関スル取扱事項」(以下「取扱事項」という。)です。「相原村役場相澤」と記載されており、当初は相澤菊太郎村長の所管事項として扱われていました。東電ですが、創設当初は東京電灯(株)という名称の火力発電による電灯電力の配電会社でした。第二次世界大戦後、東京電力という名称の新たな会社になっています。明治後半になり、火力に比べ燃料のいらぬ水力発電がブームになり、東京電灯も水力電気事業に参入します。明治40年(1907)に大月の駒橋発電所を建設、長距離送電技術を利用し早稲田変電所までの76km余を5万5千キロボルトの高圧送電を実現しました。駒橋発電所の成功を踏まえ、電気需要の高まりに、東京電灯は第2水力電気事業を計画します。駒橋発電所で使った排水を再利用し発電しようというのがハツ沢発電所の計画です。駒橋発電所直下の取水口から、延々14キロの水路を構築し大野調整池に水をため、発電を行う水路式・貯水池式発電所です。明治45年(1912)には一部が竣工、送電を行っています。相原村の送電線はこの送電に間に合わせる形で設置されたものです。



写真1 西橋本を通る送電鉄塔

「取扱事項」には、経過を箇条書きにしたメモ、地主宛の文書や工事立会委員への謝礼のメモ、工事見認事項というメモ、相原村電線路調査書(電柱の地番、本数等のリスト)の他、東電からの踏荒補償料、借用地番の一覧、電柱敷地料及び補償料(線下補償料を含む)の一覧、領収書類がつづられています。明治42年~44年の「雑書綴」(注3)の中に東京電灯からの通知があり、明治42年8月7日の測量関係依頼書簡が最初と思われます。明治42年8月に始まり、役所の地図の確認の後、9月に測量杭を打ち始め、43年中に土地の借用関係の承諾、44年2月から電線本柱工事に着手、6月には送電線本線の建設工事がほぼ終了し、9月まで架線を張る工事が行われています。建設工事の期間中、地主側から立会委員が損害関係の立会を行いました。この時期の相原村と東京電灯の関係は、東電事業に相原村が協力するという体制でおおむね良好に推移しています。

相原村と東京電灯の電灯設置交渉

「電灯設置関係書」(写真2)により、橋本駅前に電灯が点灯するまでの経過を確認します。相原村で電灯設置について議論が起きてくるのは大正元年になります。厚木電気(株)により、厚木町に電灯がつくのが大正元年の10月です。その噂を聞いて相原村でも電灯が欲しいという話になったのでしょう。そこで、意識されたのが東京電灯の送電線です。直接は無理でも、八王子に配電所があるのでそこから持って来るという案が出て、昨年まで協力していた東電だから村で欲しいといえは協力するよねという話になったようで、5月と8

月の2回、「電灯使用方について」という照会文書を東電に送っています。ところが、東電からは何の返事もなく、11月25日の村議会で交渉委員を選出、会社と直に交渉することを議決しています。付箋から、相澤村長が率先して交渉にあっていることがわかります。村長は八王子配電所主任の尾崎弥太郎と交渉を進めながら、由井村や堺村、川尻村などを誘って電灯電力の使用をアピール、需要の掘り起こしに努めています。八王子配電所の尾崎主任も「5月中には設計をなし出願すべき」と言い、6月19日に相澤村長が八王子に行った際には、調書を本社へ発送した後だと書かれており、協力して進めようと動いていたことがわかります。

本社がなかなか動かないことから、7月16日に進行状況について照会を行います。21日付の東電からの回答は、「ご来示に応じかね候」という拒否回答でした。ハシゴを外された形の相澤村長は、8月1日付けで「収支相償うべき程度」の照会を行いますが、回答はありません。具体的理由は書いてありませんが、本業である東京市(当時)への配電を優先したものと推測されます。

「電灯設置関係書」のその後の記述は、3年後の大正5年1月から3月の動きを記した箇条書きのメモが残るだけです。ただし、別綴に、町田電灯の供給規定のチラシや旗川水電(株)の申込書や、一連の電気布設に関する陳情書類の束が残されています。これは、中断を乗り越え電灯を設置しようという意見から、大正5年に行われた取り組みを表しています。相甲電気が参入し敷設営業権を握る中で、厚木電気上溝出張所や町田電灯との交渉の中で、代替会社のメドを付け、相甲電気は不适当という陳情活動を起し、布設権を取り消し、町田電灯を推奨する運動を展開していたことが推測されます。

相甲電気の参入 - 橋本駅前の電灯点灯へ

『第7回電気事業要覧』(大正4年)(注4)には相甲電気は大正2年11月3日に事業経営許可を受けた電灯・電力供給会社で、未開業と記載されています。当初、相原村橋本に火力発電所を設

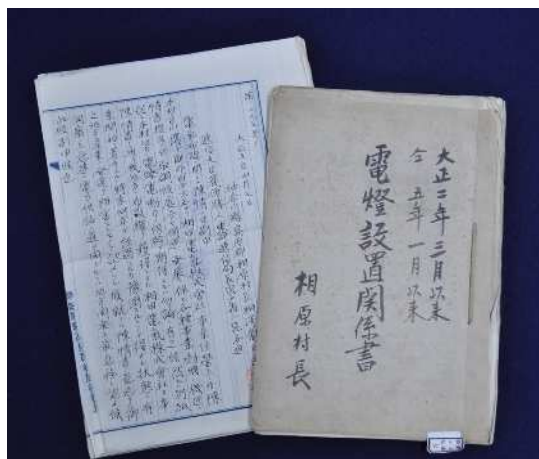


写真2 「電灯設置関係書」(大正2年)(相原村文書)

け、相原・大沢、川尻・三沢・太井・中野村への電力供給を目指していました。相原村は大正元年11月の村議会で東京電灯からの電灯布設案を議決していますので、火力発電所建設に協力する人はいません。そこで横浜水道第二期拡張工事の際に中野組中野喜三郎により設置された三ヶ木発電所が拡張工事終了後、遊休化しているのを相甲電気が引継ぎ、取入口を変更、大正3年12月14日に水力電気事業として県に出願します。大正3年は八ツ沢発電所の大野貯水池の完成する時期で、相模川の大減水が問題になり、県が調査に入り、大正5年4月に東京電灯に補償の命令が出ます。相甲電気への許可は、この解決を待ち、大正5年5月30日に許可されます。相甲電気は発電事業の許可を受け翌大正6年3月21日に事業を開始します。4月には電灯線建設のための里道使用許可願が提出されています。相澤日記によると、橋本付近での電灯の試験点灯は大正6年9月18日からで、9月24日には役場門前の外灯、郵便局の外灯も点灯されます。こうして、橋本駅付近の外灯も点灯され、三ヶ木発電所で発電された電気で橋本付近の電灯が点灯されました。

- (注)1 「東京電灯株式会社二関スル取扱事項」(明治42年~大正8年)(相原村文書)【歴史的公文書】
 2 「電灯設置関係書」(大正2年~5年)(相原村文書)【歴史的公文書】
 3 「雑書綴」(明治42年~44年)(相原村文書)【歴史的公文書】
 4 『第7回電気事業要覧』通信省電気局、通信協会

★★ 公文書館からのお知らせ ★★

第19回企画展(予定)

広報さがみはら写真ニュースと歴史的公文書で辿るさがみはらの出来事

期間 令和3年10月29日(金)～12月24日(金)

当時の出来事や話題を写真で紹介する「広報さがみはら写真ニュース」(保存行政資料)から、市内を走る開業100年の相模線、キャンプ淵野辺の返還により設置された淵野辺公園の移り変わりや銀河連邦などの出来事を歴史的公文書や写真で辿ります。

9月
/1日

歴史的公文書目録 更新しました



歴史的公文書目録(令和3年8月1日時点)を9月1日に更新しました。

市が作成又は取得した公文書で保存期間が満了したもののうち、歴史的公文書選別基準により選別された公文書で、目録化が完了したものを歴史的公文書目録に登載しています。

更新目録には、令和3年4月に博物館から移管された歴史的公文書及び令和3年度に移管された津久井やまゆり園関連の文書など、約4,500簿冊を追加し、32,299簿冊に登載しています。目録はおおむね年1回更新し公開しています。

なお、歴史的公文書は市ホームページにある「相模原市現用公文書・歴史的公文書検索システム」から検索できます。

《編集後記》

緊急事態宣言も解除され、ようやく開館することができました。今年度から学芸員を迎え、展示内容も更に充実させ、ご満足いただけるよう工夫しております。ぜひ皆様のお越しをお待ちしています。(S)

歴史的公文書目録内訳

[令和3年8月1日時点]

目録総数	32,299
現相模原市	2,928
旧相模原市	8,065
旧城山町	2,726
旧津久井町	15,459
旧相模湖町	1,012
旧藤野町	2,109

旧市町文書には以前の旧町村文書を含みます。

新着情報

広報的資料は、市が作成又は取得したポスター・ちらしや



ノベルティグッズなどで、今年は、8月までに全庁調査を実施し、さがみはらPRマガジンやコロナ関連事業のポスター、区制10周年記念事業景品【コースター】(写真)など419点を収集しています。広報的資料は、随時、ロビー展示などで紹介しています。

公文書館だより 第14号 発行日 令和3年10月15日

編集発行 相模原市立公文書館 電話 042(783)8053

所在地 〒252-5192 相模原市緑区久保沢1-3-1 城山総合事務所第2別館3階

